

アイシーダス

齲蝕診断の国際基準(ICDAS)の導入と フッ化物による再石灰化療法の新たな展開

「エナメル質初期う蝕管理加算」など新しい分野の保険導入に向けて、長年フッ化物による再石灰化療法の研究に取り組み続けてきた花田信弘先生をお招きします。歯科における新潮流にぜひ触れてみてください。

講師 鶴見大学歯学部探索歯学講座教授 **花田 信弘先生**

日時 2018年4月15日(日) 午後1時30分～4時30分

場所 古河市福祉の森会館

茨城県古河市新久田 271-1 当日連絡先 070-4345-2344
宇都宮線古河駅より南へ 3km

定員:60人(先着申込順) 参加費:無料 駐車場:無料



【花田 信弘先生からのメッセージ】

今回ご紹介する ICDAS(International Caries Diagnosis and Assessment System)は、国際的齲蝕診断・評価システムです。このシステムは、世界保健機関(WHO)の齲蝕診査基準で定義されている「健全歯」をより詳しく4段階に分け診査しようとするものです。ICDASでは歯面バイオフィルムを除去し、5秒間エアシリンジで乾燥させても初期脱灰のサインである白濁がない場合のみ「健全(Code 0)」と診断します。齲蝕による白濁があればCode 1で、診断後はフッ化物を用いて再石灰化治療を実施します。

根面齲蝕の場合は、エナメル質の診査と同様に根面をエアシリンジで5秒間乾燥させた後に色調変化(茶色または黒色)が認められない場合は健全(Code 0)、色調変化が認められた場合、実質欠損がなければCode 1、深さ0.5mm以上の実質欠損があればCode 2に判定されます。

再石灰化療法については近年さまざまな技術が開発されています。本講演では ICDAS による診断の方法について練習をしていただき、診断後に必要な再石灰化療法について解説いたします。

【花田信弘先生プロフィール】

1981年九州歯科大学歯学部卒業。同大学院修了、米国ノースウェスタン大学医学部微生物学専攻研究員、九州歯科大学助手/講師、岩手医科大学助教授を経て1993年国立感染症研究所部長、2002年国立保健医療科学院部長、2008年鶴見大学歯学部教授となり現在に至る。

専門分野:衛生学・公衆衛生学、予防歯科学。

委員等:内閣府消費者委員会専門委員、日本歯科医学会学術委員会委員長、日本口腔衛生学会理事・指導医、日本歯科医師会地域保健委員会ワーキングメンバー、日本歯科大学客員教授、東京理科大学客員教授。

共催 茨城県保険医協会／栃木県保険医協会／土浦臨床懇話会

参加申込書

切り取らずにFAX
029-822-1341へ
TEL029-823-7930、
info@ibaho.jpでも可
茨城県保険医協会

所属機関	
参加者名	(他 名)
連絡先電話 またはメール	

※定員を超過したときのみ
主催者よりご連絡を差し上げます。